

令和2年度 事務事業点検評価報告書

令和3年8月

舞鶴市教育委員会

目 次

1	事務事業の点検評価の趣旨	1
2	点検評価の概要	1
3	各事業の評価	3
4	教育委員会活動の概要	17

1 事務事業の点検評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について評価委員による点検及び評価を行い、その結果について公表しなければならないことと定められています。

この度、令和2年度に執行した事務事業について、評価委員による点検及び評価を行いました。

この結果を踏まえ、事業の必要性、有効性、効率性の検討を行い、今後より一層充実した事業の推進に努めてまいります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋) (教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等) 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。
--

2 点検評価の概要

舞鶴市教育委員会の権限に属する令和2年度の主な事務事業について、事業の目的、内容、成果等について評価委員が下記の評価の視点に基づき、評価を行ったものです。

(1) 実施日

令和3年7月26日(月)

(2) 評価委員

(敬称略)

所 属 団 体 等	氏 名
高等教育機関等 代 表	学校法人聖ヨゼフ学園 日星高等学校長 出野 健資
学 識 経 験 者	元中学校長 井口 裕明
学 識 経 験 者	元小学校長 山本 寛子

(3) 点検評価事業

No	事業名	担当課
1	不登校支援等推進経費	学校教育課
2	英語指導助手設置経費	
3	小中一貫教育推進事業費	
4	学校給食運営経費（小学校、中学校）	
5	小学生によるまちを元気にするプロジェクト事業費	
6	未来を拓く学びの環境整備事業費	
7	特別支援教育支援員設置経費（小学校、中学校）	
8	中学校部活動指導員配置事業費	
9	学校施設新型コロナウイルス感染症防止対策経費（小学校、中学校）	教育総務課
10	夢チャレンジサポート事業費	学校教育課
11	特色ある教育活動支援事業費補助金（小学校、中学校）	
12	施設整備事業費（小学校、中学校）	教育総務課
13	舞鶴文化公園体育館レスリング場整備事業（換気設備整備分）	スポーツ振興課

(4) 評価の方法

① 評価の視点

点検評価では、各事業の評価を行うにあたり、次の視点で評価委員に考察、評価を行っていただきました。

区分	視点
必要性	市民ニーズや社会情勢に適合しているか。市が事業を担う必要があるか。
有効性	事業目的に照らして、効果が現れているか。
効率性	実施方法などについて成果に見合ったコストになっているか。

② 評価判断基準

評価は「必要性」「有効性」「効率性」について、各評価委員に次のとおり5段階で評価いただき、その平均を点数化しました。

	5	4	3	2	1
必要性					
有効性	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
効率性					

3 各事業の評価

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	不登校支援等推進経費	担当課	学校教育課	事業No	1
事業費 (R2決算)	19,297 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	14,632 千円 4,665 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実 ・心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	<p>心理的要因等により不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰と社会的自立を支援するため、学校と教育支援センター(名称:明日葉(あしたば))が連携し、集団生活への適応や情緒の安定、学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。 また、教育支援センターにいじめ相談室を併設し、いじめ防止、早期発見、早期対応を図るとともに、いじめ相談ダイヤル等により、きめ細かな相談・対応を行う。 京都府教育委員会認定フリースクール「聖母の小さな学校」と明日葉、学校が連携して、児童・生徒への様々な支援を行う。</p>				
事業内容	<p>1. 教育支援センター(明日葉)の概要 (1) 事業内容 適応指導、学習指導、訪問指導、教育相談、いじめ相談等 (2) 子ども相談員 2名、臨床心理士 1名 2. チャレンジアウトドアライフ事業の実施 不登校児童生徒を対象とした野外体験活動の実施 3. いじめ相談室の概要 いじめ相談員2名 いじめ相談ダイヤル・いじめ相談メールを開設</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 教育支援センターでの適応指導、学習指導、訪問支援、教育相談等の取組 来所相談(44件)電話相談(121件)訪問支援(62件)はがき支援(25件) 2. チャレンジアウトドアライフの実施(延べ 16名参加) グリーンスポーツセンター野外活動 3. 長期欠席している児童生徒が学校復帰や高校進学に向け、通級目標を達成するなど、「明日葉」に通級等している児童生徒19名(小学生7名、中学生12名)のうち、学校へ復帰した児童生徒が15名(小学校6名、中学校9名)となった。 4. いじめ相談室の相談状況 電話相談43件、来所相談48件、メール相談1件、学校訪問2件</p>				
課題	<p>人間関係づくりに時間を要し、また、個別の状況に応じた対応が必要なため、経験豊かな相談員が児童生徒と信頼関係を築く中で取り組む必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>明日葉やいじめ相談室の活動を通して、不登校児童生徒への対応といじめ相談の充実を目指す。 また、学校でいじめや嫌なことがあっても先生や友達に相談できない子どもたちや、子どものことで悩んでいる保護者に対し、1人で悩まずに電話相談できる体制の充実を図る。</p>				
評価委員 による事業 の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<p>・年々深刻化する不登校に対する公的な支援の充実是不可欠である。 ・いじめ不登校は解決するまでに長い時間がかかり、複雑化がますます進む現代社会においては、さらにその必要性は高くなる。 ・不登校児童生徒の数は減っていない。いじめや不登校は市の教育の重要課題の一つである。</p>			
	有効性	評価点数	4.0		
	<p>・学校現場に復帰できている児童生徒が多く、一定の効果がみられる。一方で「明日葉」にも来られない児童生徒の状況把握と対応の具体化が求められる。 ・明日葉に通級したくても通級できない家庭の子どもも多い。相談員、心理士の増員が必要である。フリースクールと連携していることも有効である。 ・「明日葉」への通級児童生徒の学校復帰率が高い。</p>				
	効率性	評価点数	4.0		
	<p>・「明日葉」への来室を待つ受け身の姿勢ではなく、各校を訪問し状況を把握する等の能動的な動きの充実を図る。 ・不登校傾向の児童生徒の対応に苦慮している担任への支援の充実。 ・明日葉の取組が保護者に知られていない。広く周知していくことが大切である。 ・感染症のため野外活動が制限された。他の活動や行事に工夫、計画が必要となる。</p>				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	英語指導助手設置経費	担当課	学校教育課	事業No	2
事業費 (R2決算)	19,272 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	10,439 千円 8,833 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <p>グローバル社会に対応する教育の推進</p>				
事業目的	<p>英語指導助手を配置し、外国人から直接、生きた英語を学ぶとともに、小中学校の各段階を通じた英語教育の充実と国際理解教育を推進する。 また、英語以外の場で、目的をもって外国人とコミュニケーションをとることで英語学習に対する意欲を高める。</p>				
事業内容	<p>(1)小学校3・4年生 英語活動で英語指導助手を配置し、英語の授業補助(発音指導など)、教材作成の補助を行う。 (2)小学校5・6年生、中学生 イングリッシュシャワーデーの実施や、授業補助(発音指導など)、教材作成の補助、英語担当教員に対する研修を行う。</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>英語指導助手4名を配置し、外国人から直接生きた英語を学ぶとともに、その出身国の状況等を学ぶなど、英語教育の充実と国際理解教育の一層の推進が図れた。 (学校訪問 延べ893回)</p>				
課題	<p>できるだけ早い時期から「英語」の発声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を身に付けさせるという文科省の目標に近付くため、英語担当教員の指導力向上や事業のさらなる充実が求められる。</p>				
今後の 方向性	<p>令和2年度から新学習指導要領により小学校5・6年生の英語が教科化され、英語教員を配置している。引き続き、英語担当教員の指導力の向上を図る。</p>				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
	有効性	評価点数	4.3		
	効率性	評価点数	3.7		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	小中一貫教育推進事業費	担当課	学校教育課	事業No	3
事業費 (R2決算)	6,103 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	5,966 千円 137 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>切れ目ない教育の推進</p>				
事業目的	<p>義務教育9年間を連続した期間と捉え、児童生徒の発達の段階に応じた一貫性のある学習指導・生徒指導を行うとともに、教職員や児童生徒が連携・交流を深めることにより、小学校と中学校が協働して系統的・継続的な教育を推進することで、子どもの学力定着と学校生活への適応(中1ギャップの解消)を目指す。</p> <p>市内の幼児教育施設の保育者と小学校の教員が協働して、「幼小接続期カリキュラム」を作成・実施するとともに、施設種・設置者を越えた、幼児教育の質の向上を図る。</p>				
事業内容	<p>① 市内全中学校区(7中学校区)に小中一貫教育を導入し、以下の支援を実施。 (導入実績:28年度 城北・加佐、29年度 青葉・和田、30年度 白糸・城南・若浦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名のコーディネーター(指導主事)による指導・助言 ・小小・小中連携交流事業の実施に伴う移動手段(バス等)の手配 ・各中学校区のリーフレットを作成、取組状況の発信(ホームページ、ニュースレター)他 <p>② 小学校高学年で一部教科担任制を実施</p> <p>③ 中学校教員による小学校への乗入れ授業を実施</p> <p>④ 市内の幼児教育施設と小学校が連携協力園校を組み、生活科の連携活動を中心に子ども同士や保育者と小学校教員との交流を実施(市内全小学校18校と27の幼児教育施設)</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>平成28年度から順次、導入を進め、平成30年度に全中学校区に導入した。 教育委員会として必要な支援を行いながら、小中一貫教育を一層推進していく。</p>				
課題	<p>小中一貫教育の教育的効果が目に見える形で現れるよう、導入の成果や課題を把握・整理し取組を改善していく必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>今後も小中一貫教育の取組が形骸化することがないように児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえながら、教育委員会としてサポート体制の充実や取組の改善を進めていく。</p>				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	4.7		
	有効性	評価点数	4.0		
	効率性	評価点数	3.7		
		<p>・若い教師が増え、また導入されて数年が経過してきている現在、何のための小中一貫教育なのか、その目的と必要性を再確認することが必要である。</p> <p>・幼児期から義務教育終了までの切れ目ない教育の推進は中一ギャップ解消や小学校入学時の不安解消には必要である。</p> <p>・安定した学校生活による学力の定着のため必要な事業である。</p>			
		<p>・舞鶴市の場合、全校が施設分離型の一貫校であるため、いかに日常的な交流が出来るのかが問われる。年間計画で交流出来る内容を精査すると同時に教職員の同僚性を高めることが大切である。一方で施設分離型のため、連携に時間が掛かり、教師の負担感が増えないような配慮も必要である。</p> <p>・小中のみでなく、保幼小へ広がっている。</p> <p>・中学校教員の乗り入れ事業が増えている。</p> <p>・幼児教育と小学校教育の連携にまで広がったことは目的達成のために有効である。</p>			
		<p>・中学校ブロック内に複数の小学校がある場合は小小連携を充実させることが小中連携を効果的に実践できる近道になる。具体的には小学校で使用する「ドリル」等を統一するだけでも教科指導において一貫性が出てくる。</p> <p>・一般市民にとっては、学校だよりなどで目にするがその認知度は低い。</p> <p>・施設分離型での今後の展望が弱い。</p> <p>・一層、効率性が上がる取組が今後は必要だ。</p> <p>・ふるさと学習や外国語教育の重点化による特色が必要。</p>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	学校給食運営経費(小学校・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	4
事業費 (R2決算)	443,947 千円	財源内訳	一般財源	426,747 千円	
			国府補助金等	17,200 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	安心・安全で栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を全小・中学校で実施する。				
事業内容	<p>1. 小学校全18校に栄養士を配置し、自校調理方式により給食を実施</p> <p>2. 中学校全7校でスクールランチ方式による給食を実施</p> <p>3. 地場産野菜、舞鶴産水産物・舞鶴産コシヒカリなど、地元産の安全な食材を使用</p> <p>4. 食育の推進</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理食数 延831,722食(R2.5.1児童数 4,180人他) 地場産物(万願寺甘とう、舞鶴のさかな等)についての食育授業 ウズベキスタン料理を給食に取り入れ、舞鶴との関わりを学習 食物アレルギー児童(224名)への対応 <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理食数 延423,876食(R2.5.1生徒数 2,108人他) 教育委員会の栄養士が献立を作成 食物アレルギー生徒(108名)への対応 「食育だより」を月1回発行し、各校へ配布(ホームページで公表) アンケート実施 				
課題	年々、増加するアレルギー児童・生徒の除去食等の確実な対応と中学校での食育指導の充実が必要である。				
今後の 方向性	今後とも、引き続き、安心・安全で地産地消を積極的に取り入れた魅力のある給食の提供に努める。				
評価委員 による事業 の評価	必要性	評価点数	5.0		
	有効性	評価点数	4.3		
	効率性	評価点数	4.3		

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	小学生によるまちを元気にするプロジェクト 事業費	担当課	学校教育課	事業No	5
事業費 (R2決算)	2,700 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	1,360 千円 1,340 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実 ・ふるさと学習の推進 </div>				
事業目的	<p>ふるさと舞鶴を元気にするために、小学校6年生がまちに出て自分たちにできることを探求する活動を通して、自ら学び、主体的に行動する力を育てる。</p> <p>また、学習を通して自分たちが企画したことを舞鶴市内の事業所に働きかけ、実社会の中で自分たちの願いや夢が具現化していく中で、学ぶことと自分の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。</p>				
事業内容	<p>中舞鶴小学校の6年生児童が総合的な学習の時間を活用して、舞鶴の良さを発信することができる商品をも自分たちで企画し、市内の事業者である「アメイロビストロアルル」の協力を得て、「舞鶴ドナツ」を商品開発し、舞鶴引揚記念館内のカフェや、アメイロビストロアルルで販売を実施。</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>企画段階での会議やプレゼンでは、タブレットパソコン等ICT機器を積極的に活用した。</p> <p>この取り組みでは、子どもたちの職業体験(キャリア教育)とあわせて、郷土愛と生きる力を育むことができた。</p>				
課題	<p>今後、他校へ取組みを広めていくためには、ご協力いただける地元事業所を発掘していく必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>事業の進め方や手法については、本年度の取組みにより実施校の教員が取得した。地元の協力事業所の数にもよるが、可能な限り、他校へ広めていく。</p> <p>この取り組みを通して、地域の活性化のための人材育成につなげていきたい。</p>				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと舞鶴を元気にするためには、先ずふるさと舞鶴を知る事から始まる。ふるさと舞鶴への意識を高める取組にしたい。 ・「ふるさと」の良さ豊かさを知り、キャリア教育と結び付けたのはよかった。 ・舞鶴を愛する子どもの育成に役立つ。 	
	有効性	評価点数	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・同様の取組が中学校や高校でも行われており、小中一貫教育を効果的に勧める上でも中学校ブロック内で確認し合って実践することが必要である。 ・自分たちが考え計画したことが実現していくことに子どもたちは大きな達成感を得られた。 ・総合的な学習の内容充実には有効である。児童の主体的な計画や活動にすることが大切。 	
	効率性	評価点数	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・始めて数年は事業所も確保でき、年々新しい取組が可能であろうが、新規事業所の確保や新しい取組内容を検討しなければならない等、継続させるための課題は多い。 ・もっと多くの事業所・商店街とタイアップできるとよい。 ・継続化できるかが課題である。 ・教員の負担が大きい。 ・継続性、広がり、協力事業者の確保、特色ある教育支援事業との関係など課題が多い。 	

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	未来を拓く学びの環境整備事業費	担当課	学校教育課	事業No	6
事業費 (R2決算)	836,769 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	55,432 千円 781,337 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div>				
事業目的	予測できない将来の社会を生きる子どもたちにとって、児童・生徒がそれぞれ端末を持ち、効果的に活用した主体的な学びを養う学習活動が不可欠となっていることから、国において「GIGAスクール構想」が示され、その実現に向けた新たな学びの基盤整備を行うもの。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○高速大容量の通信ネットワーク環境の整備 市立小・中学校25校の学習系ネットワークを増強、普通教室等 計336教室へのWi-Fi整備 ○学習用端末の整備(児童・生徒1人1台) 児童生徒用(6,361台)／教員用(617台)／予備(210台) 計7,188台 ○教員向け研修の実施 管理職向け、担当者向けに意識改革や校内研修方法等を含む研修を実施 				
当該年度の 取組成果 達成状況	ICT機器を活用した学習活動を行うための環境整備として、全小中学校の高速大容量通信ネットワークの整備や、教員や児童生徒の1人1台端末の配備などに取組み、予定どおり完了した。				
課題	ICTを効果的に活用した授業を推進するためには、教員のICT活用指導力の向上が重要であり、教員に向けて実施している研修を継続して行う必要がある。				
今後の 方向性	ICTを効果的に活用した授業を推進するために、教員のICT活用指導力の向上を図る。各校の担当教員を中心として、ICT活用の観点から位置付けられた年間指導計画の作成と実践に向けた研修・研究を実施する。 災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICT機器の活用により全ての子どもたちの学びを保証できる環境を整備する。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
	有効性	評価点数	4.3		
	効率性	評価点数	3.7		
		<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想に基づき教育の情報化、ICT機器の活用等、重点的に費用を掛けて環境整備する必要は高い。 ・コロナの感染症が広がる今日においては、オンライン授業などの対策のためにも必要である。 ・GIGAスクール構想を進めるためにも欠くことはできない。 ・ICT機器の活用は子どもの主体的な学びや、興味関心に応える教育として重要である。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・急激な教育改革の波の1つであり、この波をどう乗りこなせるかが問われる。行政が主導しながらハード面を充実させると同時に、教員の指導力量を向上させる研修等のソフト面の充実が必要である。 ・小学1年生でも思った以上に操作できる。 ・ICT機器を活用した授業は子どもたちは興味関心をもって取り組んでいる。 ・1人1台端末の配備により学習の広がりや深化が期待できる。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の導入は基礎学力の定着に向けての目的ではなく手段であることを再確認することが必要である。 ・ハード面が整っても、それを使える教師の研修とサポートが不可欠である。 ・学びを進めるための手段としてICTを使用させたい。効果的に使用するための教職員の研修がさらに必要である。 ・端末使用の場面や時間について計画や研究が必要。学校や教員による格差が出ないようにしたい。 			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	特別支援教育支援員設置経費 (小学校・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	7
事業費 (R2決算)	43,297 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	21,654 千円 21,643 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p>				
事業目的	通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対し、適切な対応を行うため、各小中学校に特別支援教育支援員を配置する。				
事業内容	支援員の配置 ・小学校12校に「29名」 ・中学校 7校に「22名」				
当該年度の 取組成果 達成状況	年度当初、教育上特別な支援を必要とする児童生徒は、小学校は18校に528名、中学校は7校に 319名が在籍。対象児童生徒へ適切に対応するため、小学校12校に「29名」、中学校7校に「22名」の特別支援教育支援員を配置した。 通常学級、特別支援学級に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実に努めた。				
課題	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にある中、支援員の確保が課題となっている。				
今後の 方向性	今後とも、通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、支援員を配置し、適切な教育(支援)を推進していく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童生徒への支援は、対象生徒だけでなく、児童生徒全体の学力向上や学校生活の充実に繋がる。 ・年々特別な支援を必要とする子どもが増えているので、その必要性は大きい。 ・特別な支援を必要とする児童生徒への支援は、対象児童生徒だけでなく全体の学力向上や学校生活の充実に必要である。 				
	有効性	評価点数	4.7		
<ul style="list-style-type: none"> ・年々増加傾向にある特別な支援を要する児童生徒への対応は担任一人では限界がある。個々の児童生徒にしっかり寄り添うことが出来るという点からも有効である。 ・一人一人に対応した教育を行う上では有効である。 ・担任にとっても支援員が配置されることで、負担が軽減できる。 ・児童生徒や保護者の信頼を深め学習の充実に効果をあげている。 					
効率性	評価点数	4.0			
<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の確保と資質の向上が求められる。 ・個々のニーズに適切に応えるためにも、支援員の研修が必要である。 ・支援員の確保や効果的な活用が課題である。 ・計画的に継続性のある支援員を確保していかなければならない。 					

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	中学校部活動指導員配置事業費	担当課	学校教育課	事業No	8
事業費 (R2決算)	1,763 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	647 千円 1,116 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地域との連携による教育・子育て支援の推進 </div>				
事業目的	専門的な知識・技能を有する部活動指導員を顧問として中学校に配置し、教員の部活動指導にかかる負担の軽減を図るとともに、競技力や技術の向上など部活動の質的な向上を図る。				
事業内容	中学校に部活動指導員を配置(各校 1種目1名)				
当該年度の 取組成果 達成状況	○7中学校に7名の部活動指導員を配置 青葉中(合唱)、白糸中(卓球)、和田中(ソフトボール)、城南中(吹奏楽)、 城北中(柔道)、若浦中(陸上)、加佐中(野球) ○教員の部活動指導にかかる負担の軽減を図ることができた。				
課題	学校が必要とする種目の部活動指導員を確保することは難しい。スポーツ協会等に協力をいただくなど、人材確保に努めていく必要がある。				
今後の 方向性	国・府に、さらなる財政支援をお願いしながら、人材の確保に努め、教員の部活動指導にかかる負担の軽減と、競技力の向上などに取り組んでいく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員にとって部活動指導は大きな負担になっている。働き方改革だけでなく、専門的な技術指導の面からも充実させて欲しい事業の一つである。 ・教員の負担軽減や部活動の質の向上のためには必要である。 ・教職員だけでは、専門的な指導に限界があり、生徒の要求に応えるために必要な事業である。 	
	有効性	評価点数	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員には技術指導だけでなく、生徒と接する中で生徒指導能力も問われる。生徒との関係悪化やトラブルが生じた時の対応等、結果的に教職員の負担に繋がらないような手立てが必要である。 ・全中学校に広がり、少しでも教員の負担軽減につながっているのは、有効である。 ・各中学校に配置され、有効に活用されている。 	
	効率性	評価点数	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・人材豊富な地域以外では指導員の確保が困難である。また生徒理解や個人情報の取り扱い等への研修も必要となる。 ・人材バンクのようなものを設置するなどして、指導員を確保していく。 ・教員の働き方改革からしても、さらに、予算を増やし指導員を増員していく。 ・部活動の意義、地域社会との連携など、根本的な視点からの改革のなかで配置を考える必要がある。 	

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2度事業)

事務事業名	学校施設新型コロナウイルス感染症防止対策経費(小学校・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	9
事業費(R2決算)	85,317 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	2 千円 85,315 千円	
教育振興大綱の該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div>				
事業目的	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業から、学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援を行う。				
事業内容	新型コロナウイルス感染症の影響による、学校の一時臨時休業に係る対応及び臨時休業からの再開等を支援するため、学校の規模に応じ、予算を配分。感染症リスクを最小限にしながら学校を再開し、児童生徒の学びを保障するため、学校の裁量で、迅速かつ柔軟な対応を実施。				
当該年度の取組成果達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再開に伴う感染症対策・学習保障に係る支援経費(消毒用アルコール、プロジェクター等) ・夏季期間等の教育環境対策経費(光熱水費、中学校美術室空調設備設置工事費) ・PCR検査委託料 ・修学旅行キャンセル料(中学校) 				
課題	感染対策や学習保障として購入した備品等の維持管理や、更新時の予算確保が必要となる。				
今後の方向性	今後の感染拡大も見据え、十分な対応をすることができたが、今後も感染症対策をしっかり行い、児童生徒の学びを止めない取組みを行っていく。				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
	有効性	評価点数	5.0		
	効率性	評価点数	4.3		
		・次々と発生する変異種への対応等、学校現場だけでの対応には限界があり、行政が主導し対応策を講じる必要がある。 ・感染症対策対応としては、最も必要な事業である。 ・今日的課題として必要な対策である。			
		・感染対策や学習保障に関わる経費の行政の負担は、学校現場にとって大変有難い対応である。 ・学校現場で、クラスターが発生していないことをみても有効であった。 ・臨時休業からスムーズな授業再開も行えた。 ・学校におけるクラスターの発生もなく、対策ができていた。いじめ等への配慮も適切であった。			
		・行政主導で策を講じる必要がある一方で、過度な感染症対策の要求は学校現場への負担感の増加にもなる。 ・感染の終息が見えないので、今後も、感染症対策の継続化が必要である。 ・命や健康にかかわる対策であり、今後も十分な対応が望まれる。			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	夢チャレンジサポート事業費	担当課	学校教育課	事業No	10
事業費 (R2決算)	7,376 千円	財源内訳	一般財源	3,664 千円	
			国府補助金等	3,712 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実 ・ふるさと学習の推進 </div>				
事業目的	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支え、将来、社会に貢献できる人材を育成するために、学力向上に向けた支援を行う。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力チャレンジ…生徒の学力状況を把握し、学習改善につなげるとともに生徒が自分の学力を把握し進路実現に活かすため、中学校で各学年統一の学力診断テストを実施。 2. 検定チャレンジ…舞鶴市在住の中学生を対象に英語検定料を補助。(2級、準2級、3級受験者に全額補助) 3. 夢講演会…生徒が将来の夢を考えるきっかけとするため外部講師による講演会を実施。 4. 夢サポート事業…各学校の学力向上、教職員の資質の向上等の取組や、地域の特色を活かした教育活動を支援。 				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力チャレンジ…舞鶴市統一学力診断テスト(夢チャレンジテスト・5教科) 市内7中学校 全学年 1,979名が受験 ※順位の開示を希望した保護者 … 90.1% 2. 検定チャレンジ…英語検定(10月、1月)にチャレンジした生徒250名に検定料を補助 うち、合格者> 2級4名、準2級20名、3級136名、計 160名 3. 夢講演会…1校実施 1講演 4. 夢サポート事業…各学校ごとに特色ある取組を実施 				
課題	全ての生徒が将来の夢や目標を持つとともに、その実現へ向け、学習意欲を高めることが必要				
今後の 方向性	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支えるため、引き続き、各事業を実施していくとともに、舞鶴市統一学力診断テストにより学力定着状況を把握し、指導改善に活かしていく。				
評価委員 による事業 の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が夢の実現に向けてチャレンジしやすい環境を整えてやるのは行政の責任であると思う。そうした児童生徒を支える重要な事業であると思う。 ・生徒の希望進路実現のためにも有効な事業である。 ・子ども達に将来の夢を考えさせ、その実現に向けての学力向上の取組への支援は大切な事業である。 			
	有効性	評価点数	4.3		
	<ul style="list-style-type: none"> ・工業技術のように年々数値が向上するものではないと思う。年によっては数値が低下する場合もあると思うが、生徒の学力向上や意欲の向上にとって有効な事業であると思う。 ・順位開示希望保護者が90%を上回り保護者の中でも「学力チャレンジ」が定着し、関心も大きくなっている。 ・学力チャレンジ、検定チャレンジは定着した事業となっている。 				
	効率性	評価点数	4.0		
	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する一部の児童生徒のためだけの事業にならないように、全ての児童生徒の意欲の向上に繋がるような内容になることを願う。 ・各校の夢サポート事業がどのような取り組みをされ、どの程度の効率が上がっているのかが見えにくい。 ・英検4級の検定料補助もあってよい。 				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	特色ある教育活動支援事業費補助金 (小学校・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	11
事業費 (R2決算)	4,895 千円	財源内訳	一般財源	4,895 千円	
			国府補助金等	0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ふるさと学習の推進</div>				
事業目的	地域の方々などの協力のもと、地域に根ざした特色ある学校づくりや教育活動を推進するための支援を行う。 豊かな体験活動を実施し、「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を育てるとともに、本市の特色ある歴史や豊かな自然について学び、「ふるさと舞鶴」への愛着を育む。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動支援事業 地域の方々などの協力による特色ある教育活動を支援。 小学校6年生の社会科学習で引揚記念館を見学する「ふるさと学習」を実施。 2. 地域ふれあい体験活動事業 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施できず 				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動支援事業 総合的な学習の時間、体験活動、野外活動、クラブ活動、部活動等において、地域の方々との協力のもと特色ある教育活動の支援を実施した。 2. 地域ふれあい体験活動事業 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施できず 				
課題	ふるさと学習に協力いただける幅広い地域人材の発掘。				
今後の 方向性	「豊かな人間性」を育てる「心の教育」の充実を図るため、引き続き、学校現場のニーズを把握し、教育委員会として特色ある教育活動を支援していく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	4.0		
		・「小学生によるまちを元気にするプロジェクト事業」と重複する部分があり、どちらかの整理が必要に思う。 ・「ふるさと」を見つめ直し、さらに良さを見つけ「ふるさと」を愛する子どもを育てることは必要である。 ・引揚記念館の見学などの「ふるさと学習」は舞鶴の児童生徒に必修の事業である。			
	有効性	評価点数	3.0		
	・小学生には「小学生によるまちを元気にするプロジェクト事業」を適用し、こちらは中学生に特化した取組にするのも一案だと思う。 ・感染症拡大防止のため、地域とのふれあいが実施できなかったのは残念である。体験活動は重要である。 ・感染症拡大防止のため実施できない活動があった。				
	効率性	評価点数	3.3		
	・複数の類似する事業をそれぞれ充実させるためにも、対象と目的をもう少し明確にする方が効果的に実施できるのではないかと思われる。 ・毎年、同じ取組になっている。新たな取組が必要な時期になっているのではないだろうか。 ・感染症対策をしながらできる学習内容の工夫が必要。				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	施設整備事業費(小学校・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	12
事業費 (R2決算)	76,440 千円	財源内訳	一般財源 地方債 国府補助金等	27,622 千円 42,900 千円 5,918 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div>				
事業目的	児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。				
事業内容	老朽化した校舎や設備を改修し、安全で安心な教育環境の充実のための施設整備				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水等屋根改修工事(由良川小体育館・中舞鶴小体育館・中筋小校舎) ・給食室冷暖房設備改修工事(志楽小) ・遊具改修工事(倉梯小) ・安全点検・点検に伴う器具の更新等(高圧受変電設備 5校・避難救助袋取替 2校) ・その他各校改修工事及び修繕(194件) 				
課題	今後経年劣化していく学校施設が増加するため、改修等に要する事業費を確保し、計画的な更新が必要である。				
今後の 方向性	舞鶴市全体の取組である市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、不具合箇所を早期発見することで、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。また、大規模な改修については、国の動向に合わせ、事業計画の見直しやより有利な財源の確保を検討しながら、遂行する。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		・安心安全な教育環境の整備は優先して実施すべき事業である。引き続き適切な対応が望まれる。 ・子どもたちの安全を守るためや、多くの学校が避難所となっていることを考えても、施設の整備は必要である。 ・安全で安心な教育環境の整備は常に必要な事業である。			
	有効性	評価点数	4.7		
	・最近の天候不順に対応して、学校は避難場所としての役割が大きくなってきている。学習環境だけでなく避難場所としての機能も点検するべきである。 ・毎年多くの改修・修繕があるが、きちんと整備されている。 ・確実な点検、計画的な改修工事がなされている。				
	効率性	評価点数	4.7		
	・単に年数だけで判断するのではなく、トイレの洋式化等、時代に合った整備も計画していくべきであると考えます。 ・経年劣化も考え、効率的な取組と財源確保が課題である。トイレの洋式化を推進してほしい。 ・近年の気候変動や感染症のような状況にも対応できる事業費が必要。				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(令和2年度事業)

事務事業名	舞鶴文化公園体育館レスリング場整備事業(換気設備整備分)	担当課	スポーツ振興課	事業No	13
事業費 (R2決算)	4,180 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	2,774 千円 1,406 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校等における教育環境の充実 </div>				
事業目的	施設の特性に配慮した教育環境の充実を図るための整備を行う。				
事業内容	東京2020オリンピック競技大会に係るホストタウンの取り組みや、優秀な競技者の育成や競技人口の拡大など更なる競技普及を図るため、舞鶴文化公園体育館のレスリング場整備を行うとともに、スポーツ施設に係る新型コロナウイルス感染症への対応として、換気設備を整備する。				
当該年度の 取組成果 達成状況	・舞鶴文化公園体育館レスリング場整備(換気設備整備)				
課題	今後経年劣化していくスポーツ施設が増加するため、改修等に要する事業費の確保が必要である。				
今後の 方向性	舞鶴市全体の取り組みである市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、指定管理者と共有しながら、予防保全や不具合箇所の早期発見を行い、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。また、大規模な改修については、施設の中長期計画をもとに計画的に、かつ有利な財源の確保を検討しながら実施する。				
評価委員 による 事業の 評価	必要性	評価点数	4.7		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の充実に向けて必要な事業であると思われる。 ・感染症対策として換気設備を整備することはレスリング時使用だけでなく必要である。 ・レスリング会場の整備により、優秀な児童生徒が育っている。ホストタウンとしての役割からも必要な事業であった。 				
	有効性	評価点数	4.3		
<ul style="list-style-type: none"> ・施設を有効に活用し、「レスリングのまち舞鶴」を維持するためには、レスリングの裾野を広げ競技人口を増やす取組が不可欠になる。 ・レスリングに取り組む子どもたちが増えその成果が表れている。 ・レスリングやオリンピックへの興味関心が高まり、児童生徒の育成もすすんでいる。 					
効率性	評価点数	4.3			
<ul style="list-style-type: none"> ・「レスリングのまち舞鶴」を大切にする一方で、一部の愛好家のためだけの施設にならないように、市民の健康維持が目的とされる施設となるよう整備されることを願う。 ・経年劣化していくことを考え、計画的な取組と財源の確保が必要である。 ・ウズベキスタンとの友好親善の役割を果たすことができた。 					

4 教育委員会活動の概要

(1) 教育委員会の開催状況

令和2年度の定例教育委員会は原則として月1回、臨時教育委員会は必要に応じてそれぞれ下記のとおり開催しました。

○定例教育委員会 10回

○臨時教育委員会 6回

(2) 教育委員会審議等状況

令和2年度は下記の21件の議案について審議しました。

《教育委員会審議案件等一覧》

議案番号	審議事項	審議日
第18号議案	舞鶴市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について(専決第1号)	R2. 5. 20 (定例会)
第19号議案	舞鶴市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服務に関する規程の一部を改正する訓令について(専決第2号)	
第20号議案	舞鶴市社会教育委員の委嘱について(専決第3号)	
第21号議案	舞鶴市教育委員会職員の人事異動について(専決第4号)	
第22号議案	学校運営協議会委員の任命について	
第23号議案	令和2年舞鶴市議会6月定例会提出議案に係る意見について	
第24号議案	令和2年舞鶴市議会6月定例会提出議案に係る意見について	R2. 6. 9 (臨時)
第25号議案	令和2年舞鶴市議会6月定例会提出議案に係る意見について	R2. 6. 24 (定例会)
第26号議案	令和3年度以降に使用する市立中学校用教科用図書採択について	R2. 8. 7 (臨時)
第27号議案	「令和元年度事務事業点検評価」の結果について	R2. 8. 20 (定例会)
第28号議案	令和2年舞鶴市議会9月定例会提出議案に係る意見について	
第29号議案	令和2年舞鶴市議会9月定例会提出議案に係る意見について	R2. 8. 24 (臨時)
第30号議案	舞鶴市立学校におけるハラスメントの防止等に関する規程の一部を改正する訓令の制定について(専決第5号)	R2. 9. 29 (定例会)
第31号議案	令和2年舞鶴市議会12月定例会提出議案に係る意見について	R. 2. 11. 17 (臨時)
第32号議案	令和3年度教職員の人事異動方針について(専決第6号)	R2. 11. 20 (定例会)
第33号議案	舞鶴市いじめから子どもを守る会議委員の委嘱について	

第1号議案	令和3年舞鶴市議会3月定例会提出議案に係る意見について	R3.2.16 (定例会)
第2号議案	舞鶴市立小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免について	R3.2.26 (臨時)
第3号議案	令和3年舞鶴市議会3月定例会提出議案に係る意見について	R3.3.5 (臨時)
第4号議案	舞鶴市立学校におけるハラスメントの防止等に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	R3.3.24 (定例会)
第5号議案	「令和3年度学校教育の重点」について	